

2025年度 第2四半期(中間期) 決算説明会

2025年(令和7年)11月26日



©2008 NETUREN designed by MONDO DESIGN

- 01** 2025年度 第2四半期(中間期) 決算の概要
- 02** 経営実績の推移
- 03** 第16次中期経営計画の進捗
- 04** Appendix



01 2025年度 第2四半期(中間期) 決算の概要

02 経営実績の推移

03 第16次中期経営計画の進捗

04 Appendix



1. 2025年度 第2四半期(中間期) 連結決算の概要

- 売上高 : 建設業界の低迷や人手不足、建設資材高騰、悪天候による影響もあり、工事遅延、着工遅れが継続
自動車業界は、海外ITWの販売は堅調に推移したものの、国内の部品販売や受託加工の売上は減少
建設機械業界は、旋回輪事業は堅調に推移したものの、受託加工事業の受注は減少。更に、海外子会社における円高影響などにより、前年同期比9.1%の減収
- 営業利益 : コストアップに対する販売価格への転嫁を実施するも、減収の影響が大きく、前年同期比40.1%の減益

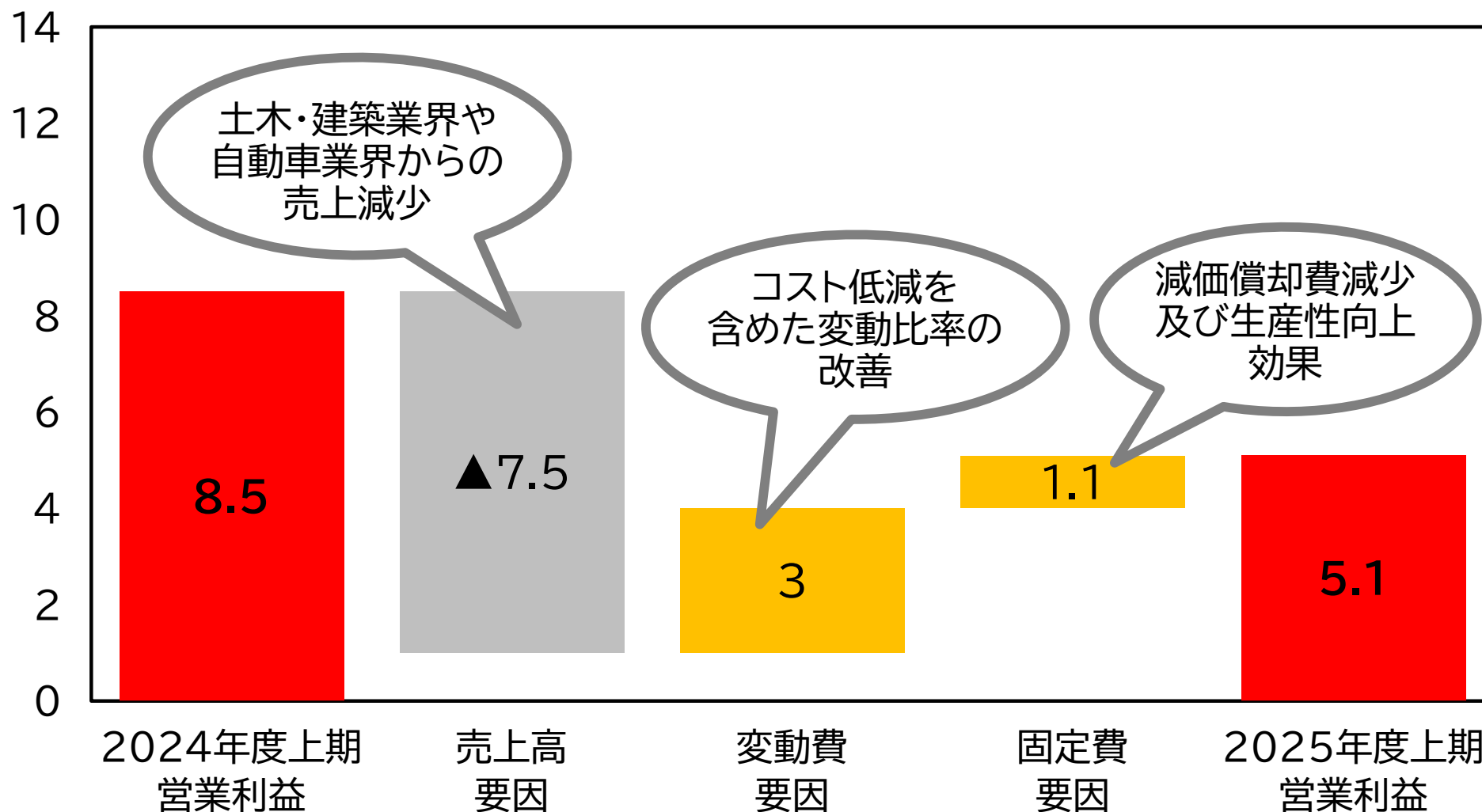
(単位:百万円)

	2024年度 上期	2025年度 上期	増減	増減率
売上高	29,002	26,374	▲2,628	▲9.1%
営業利益	854	512	▲342	▲40.1%
経常利益	1,154	880	▲274	▲23.8%
親会社株主に帰属する 中間純利益	615	462	▲152	▲24.8%

2. 連結営業利益の増減要因

- 売上高要因は、土木・建築業界や自動車業界からの売上減少による減益
- 変動費・固定費要因は、コスト低減などにより増益

(単位:億円)



3. セグメント情報(連結売上高)

- 製品事業部 土木建築業界 : 業界の低迷や人手不足、資材高騰、悪天候による影響もあり工事遅延、着工遅れが継続
 関連事業 自動車業界 : 海外:ITWの販売は堅調に推移
 建設機械業界 : 国内:ITWを含む部品販売は減少
 : 旋回輪事業は堅調に推移
- IH事業部 熱処理受託加工関連 : 自動車:一部挽回があるも全体的に減少傾向
 関連事業 誘導加熱装置関連 : 建設機械及び工作機械:市況低迷が継続
 : 国内外において、一部の装置の販売が下期へずれ込む
- その他 ドーケンを新たに連結対象としたことによる

(単位:百万円)

事業区分	主な製品・サービス	2024年度 上期	2025年度 上期	増 減	増減率
製品事業部 関 連 事 業	PC鋼棒関連製品 高強度せん断補強筋 高強度ばね鋼線ITW® 中空ラックバー 旋回輪(建設機械部品)	18,609	16,822	▲1,787	▲9.6%
I H 事 業 部 関 連 事 業	熱処理受託加工 誘導加熱装置・サービス	10,322	8,983	▲1,338	▲13.0%
そ の 他	賃貸事業ほか	71	568	497	698.9%
合計		29,002	26,374	▲2,628	▲9.1%

4. セグメント情報(連結営業利益)

- 製品事業部
関連事業 販売価格への転嫁を推進しているものの、土木・建築業界や中空ラックバー・二輪車用部品向けの販売量の減少により減益
- IH事業部
関連事業 熱処理受託加工関連：自動車・建設機械・工作機械いずれの業界からの受注も低調に推移したことによる減益
誘導加熱装置関連：国内外において一部の装置の販売が下期へずれ込んだことによる減益
- その他 ドーケンの株式取得関連費用133百万円を計上

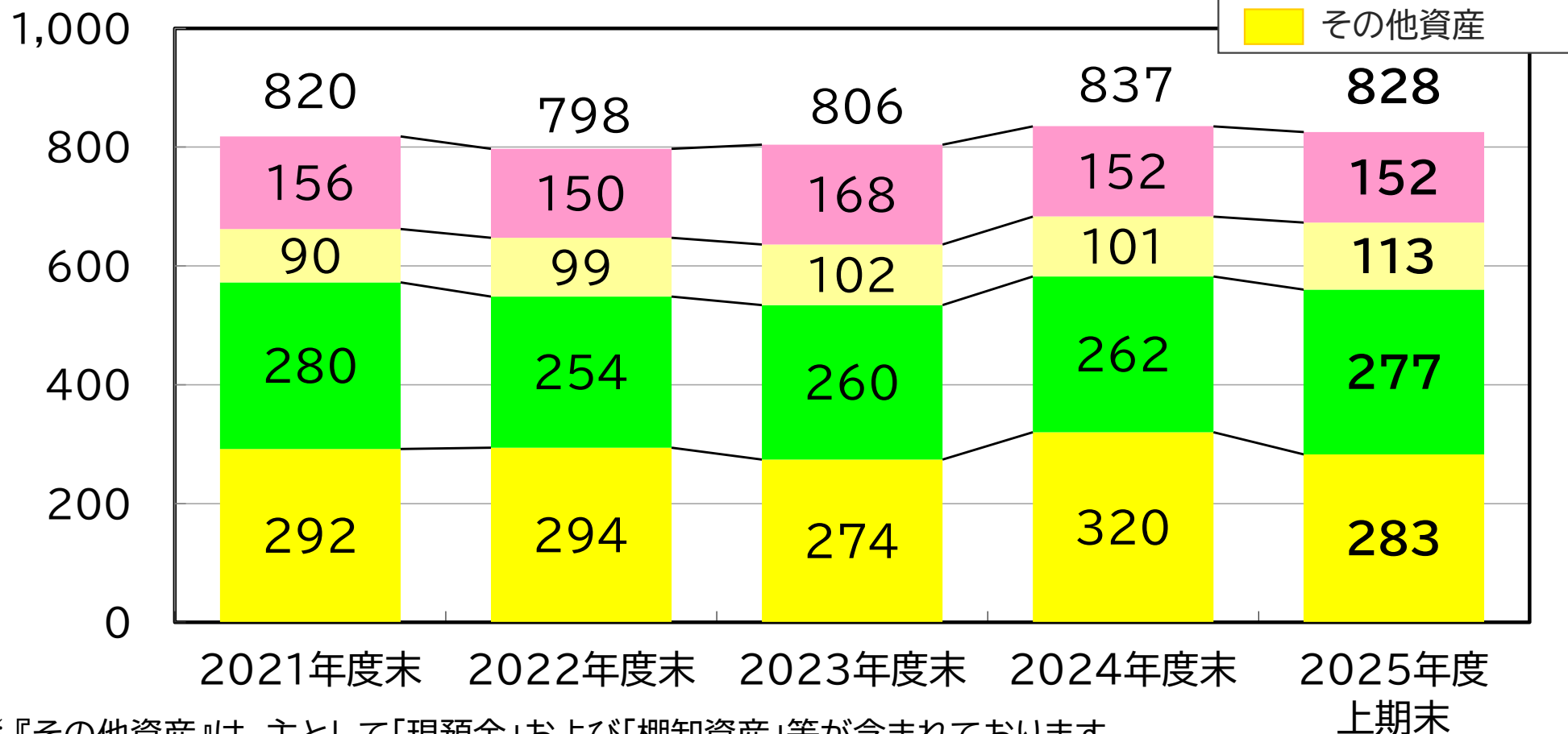
(単位:百万円)

事業区分	主な製品・サービス	2024年度 上期	2025年度 上期	増 減	増減率
製品事業部 関連事業	PC鋼棒関連製品 高強度せん断補強筋 高強度ばね鋼線ITW® 中空ラックバー 旋回輪(建設機械部品)	148	78	▲69	▲47.0%
IH事業部 関連事業	熱処理受託加工 誘導加熱装置・サービス	676	504	▲171	▲25.3%
そ の 他	賃貸事業ほか	27	▲73	▲101	▲363.0%
セグメント間取引消去		1	1	0	0.0%
合計		854	512	▲342	▲40.1%

5. 資産残高の推移(連結)

- 総資産は、ドーケンの株式取得、自己株式取得や配当金支払いにより現預金が減少し、前年度末比9億円減少
- 投資有価証券に含まれる「保有株式」の銘柄数は、2019年度比で34銘柄、69.3%減少したものの、時価は、株価上昇のため増加

(単位:億円)

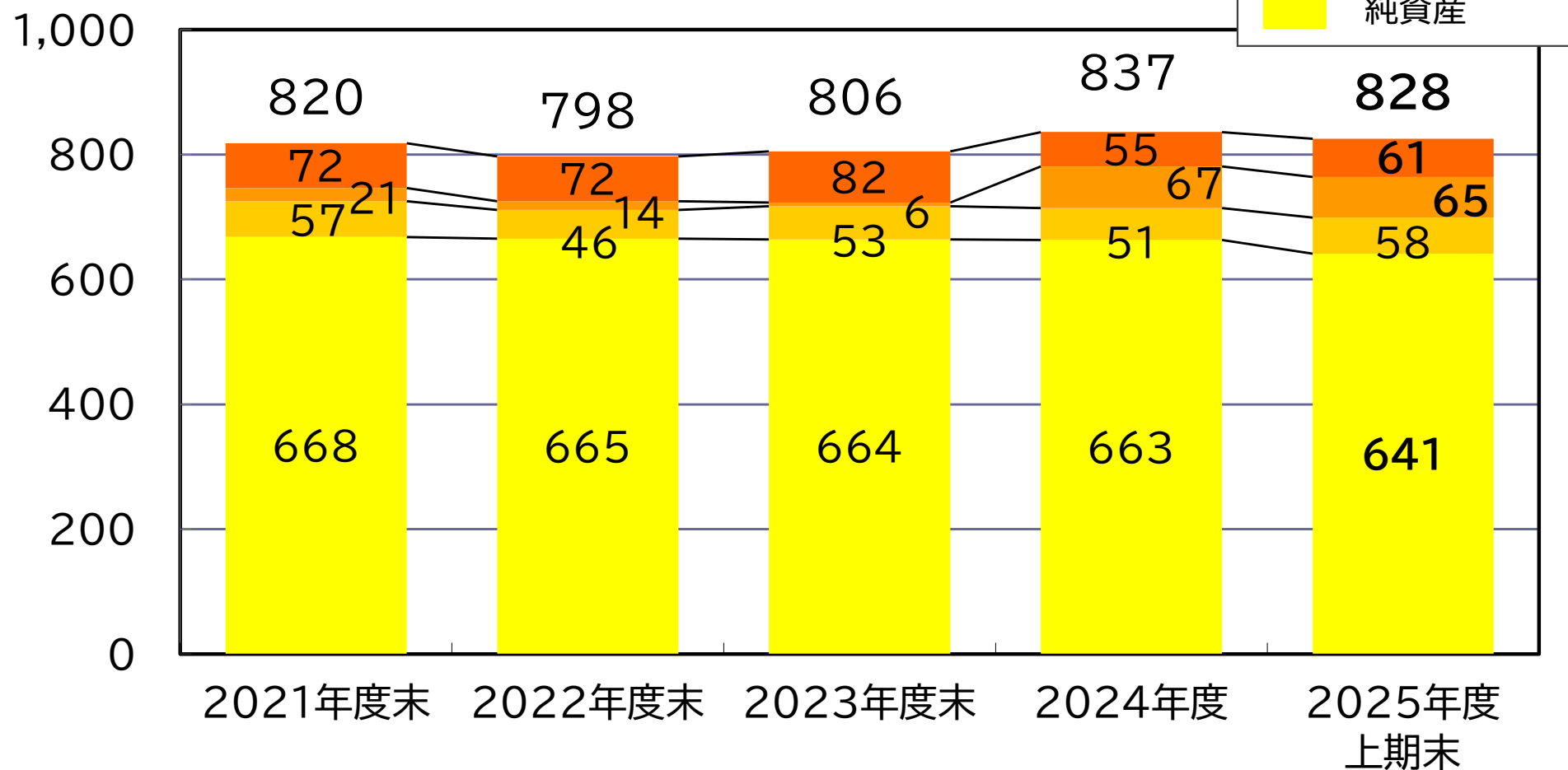


※『その他資産』は、主として「現預金」および「棚卸資産」等が含まれております

6. 負債・純資産残高の推移(連結)

- 負債 : 仕入債務の増加により前年度末比11億円増加
- 純資産 : 自己株式取得を実施したことや、円高による為替換算調整勘定が減少したことなどにより、前年度末比22億円減少

(単位:億円)



7. キャッシュ・フロー(連結)

- 営業CF: 売上債権が減少、仕入債務が増加したことなどにより、前年同期比で増加
- 投資CF: 有形固定資産の取得による支出や、ドーケンの株式取得による支出があったことなどにより、前年同期比で減少
- 財務CF: 借入金の返済や自己株式の取得、配当金の支払いがあったことなどにより、前年同期比で減少

(単位:百万円)

科 目	2024年度 上期	2025年度 上期	増 減
税金等調整前中間純利益	1,180	860	▲319
減価償却費	1,154	1,043	▲111
売上債権の増減	1,163	185	▲978
仕入債務の増減	▲2,460	180	2,641
その他	▲684	▲1,160	▲476
営業活動によるキャッシュ・フロー	354	1,109	754
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,300	▲2,409	▲1,109
フリーキャッシュ・フロー	▲945	▲1,299	▲354
借入金	▲5	▲568	▲563
自己株式の取得	▲1,106	▲935	170
配当金の支払額	▲905	▲891	13
その他	▲492	▲195	297
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,509	▲2,591	▲82
キャッシュ・フロー中間期末残高	11,811	13,417	1,605

01 2025年度 第2四半期(中間期) 決算の概要

02 経営実績の推移

03 第16次中期経営計画の進捗

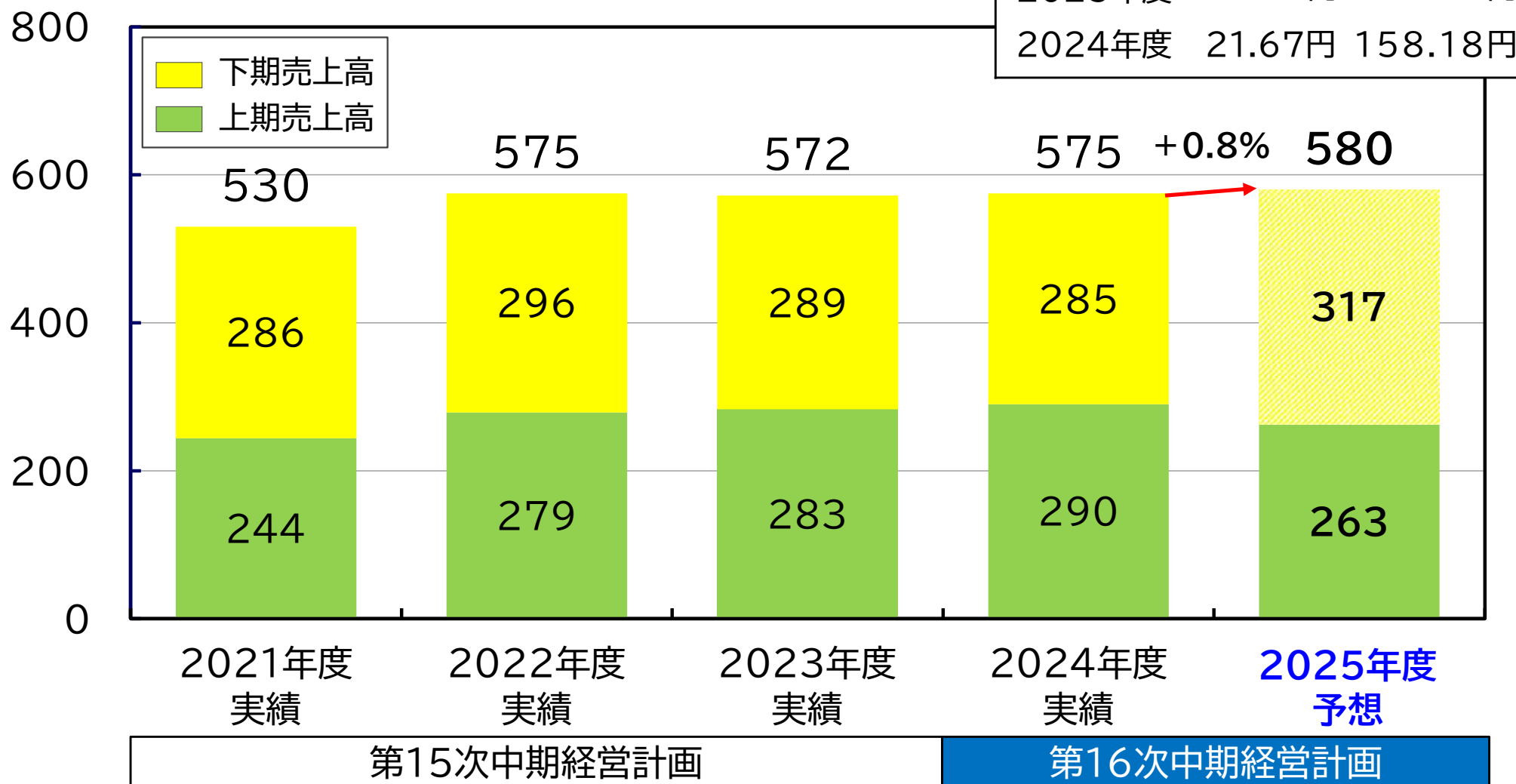
04 Appendix



8. 連結売上高の推移

- 工事遅延、着工遅れなどにより、上期に低迷していた土木建築関連の売上が下期に回復してくると予想。装置関連における上期の期ずれの影響が下期で解消する見込み
- 当初計画通り、前期比0.8%増収の580億円を見込む

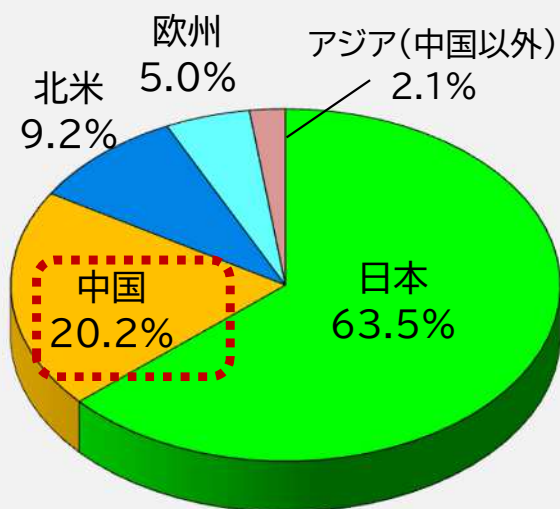
(単位:億円)



9. 地域別売上高比率の推移

- 中国においては、景気減速の影響を受け、売上高比率が減少する見込み
- 海外売上高比率は、前期比微減の37.5%を見込む

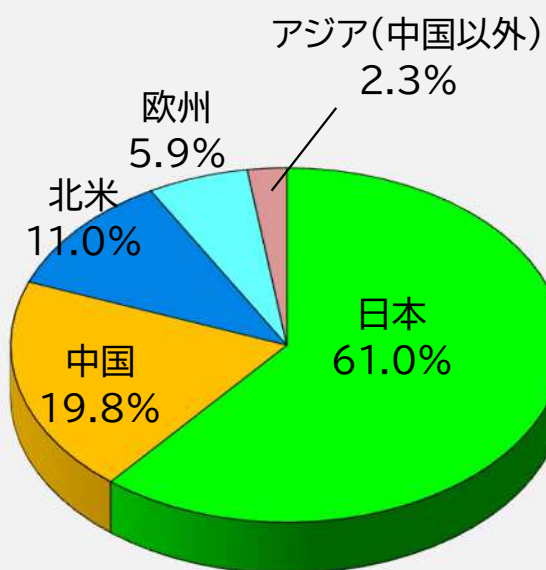
2023年度 実績



海外売上高比率

36.5%

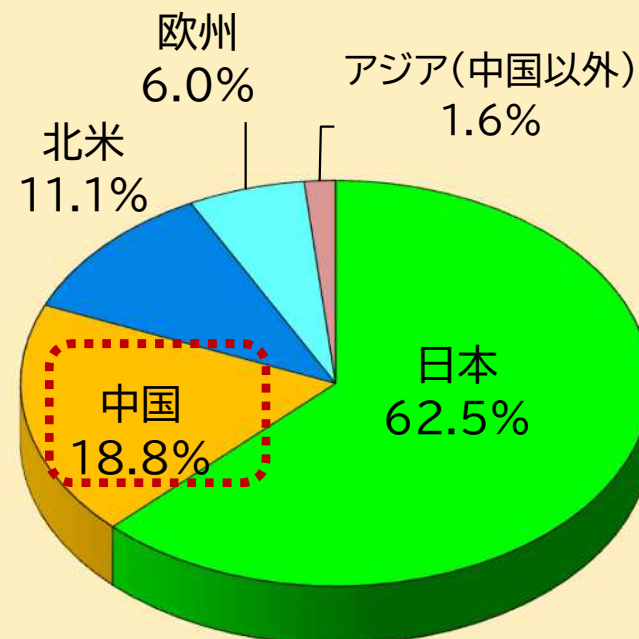
2024年度 実績



海外売上高比率

39.0%

2025年度 予想



海外売上高比率

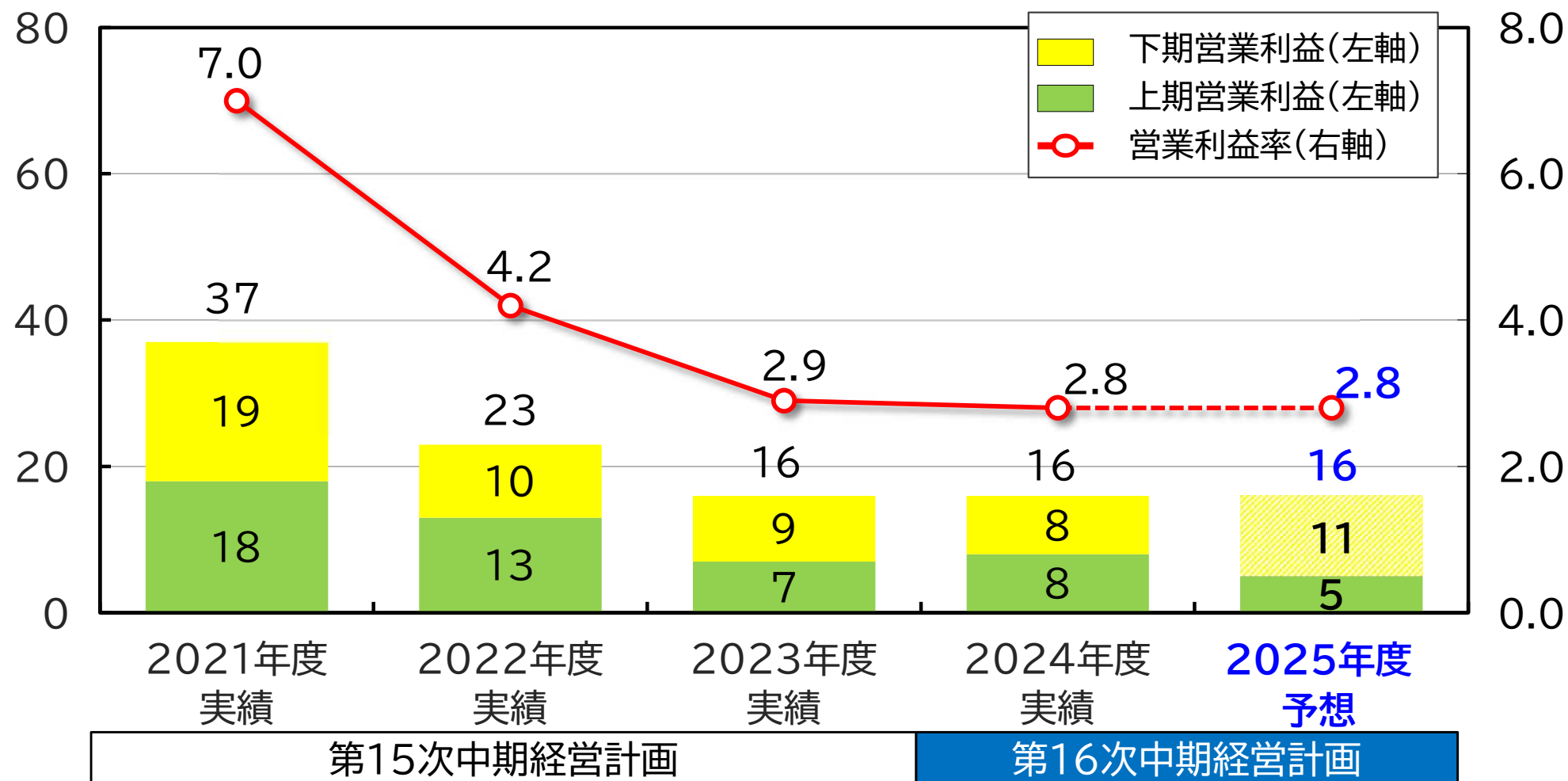
37.5%

10. 連結営業利益・営業利益率の推移

- 上期で低迷していた土木・建築関連の売上が下期で回復してくる増収効果、海外ITWの増収効果、装置関連における上期の期ずれの影響が下期で解消することなどにより、下期は増益を見込む
- 営業利益は当初計画どおり、前期比横ばいの16億円を見込む

(単位:億円)

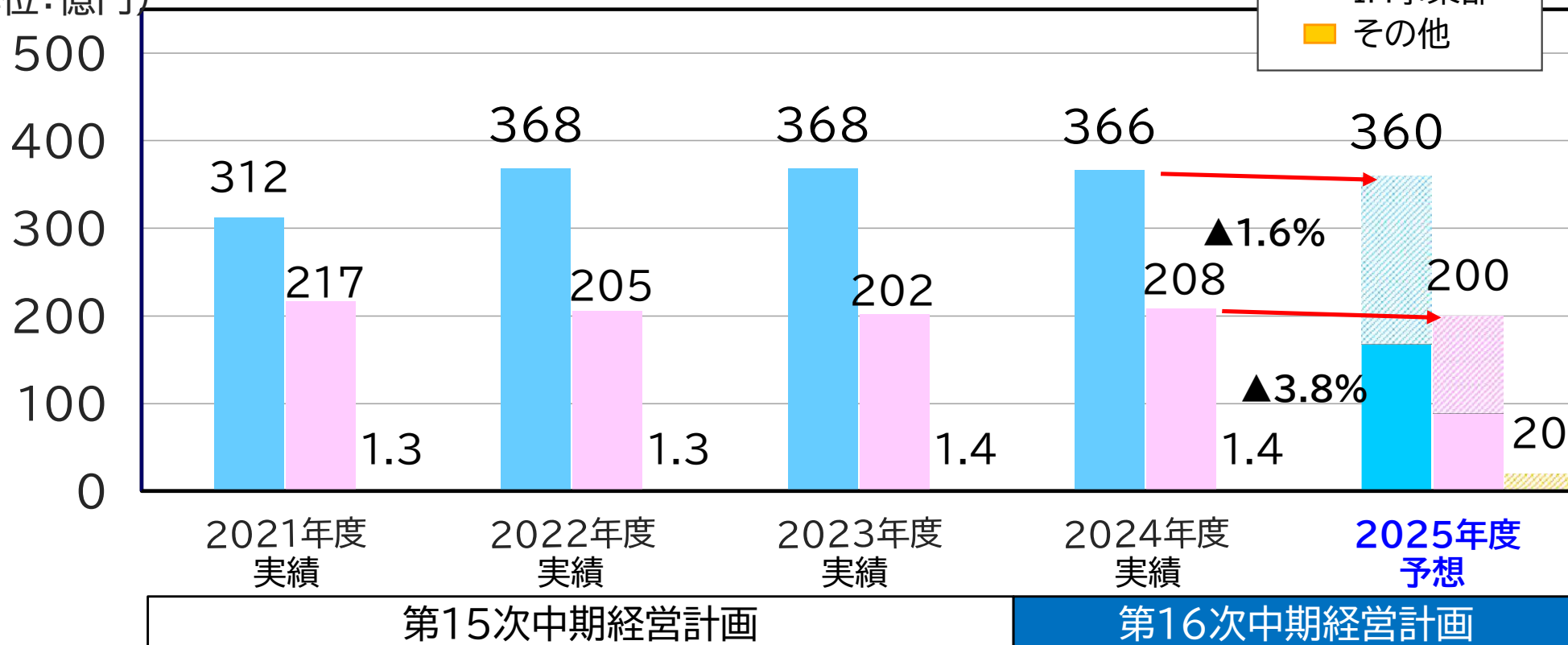
(単位:%)



11. セグメント情報(連結売上高推移)

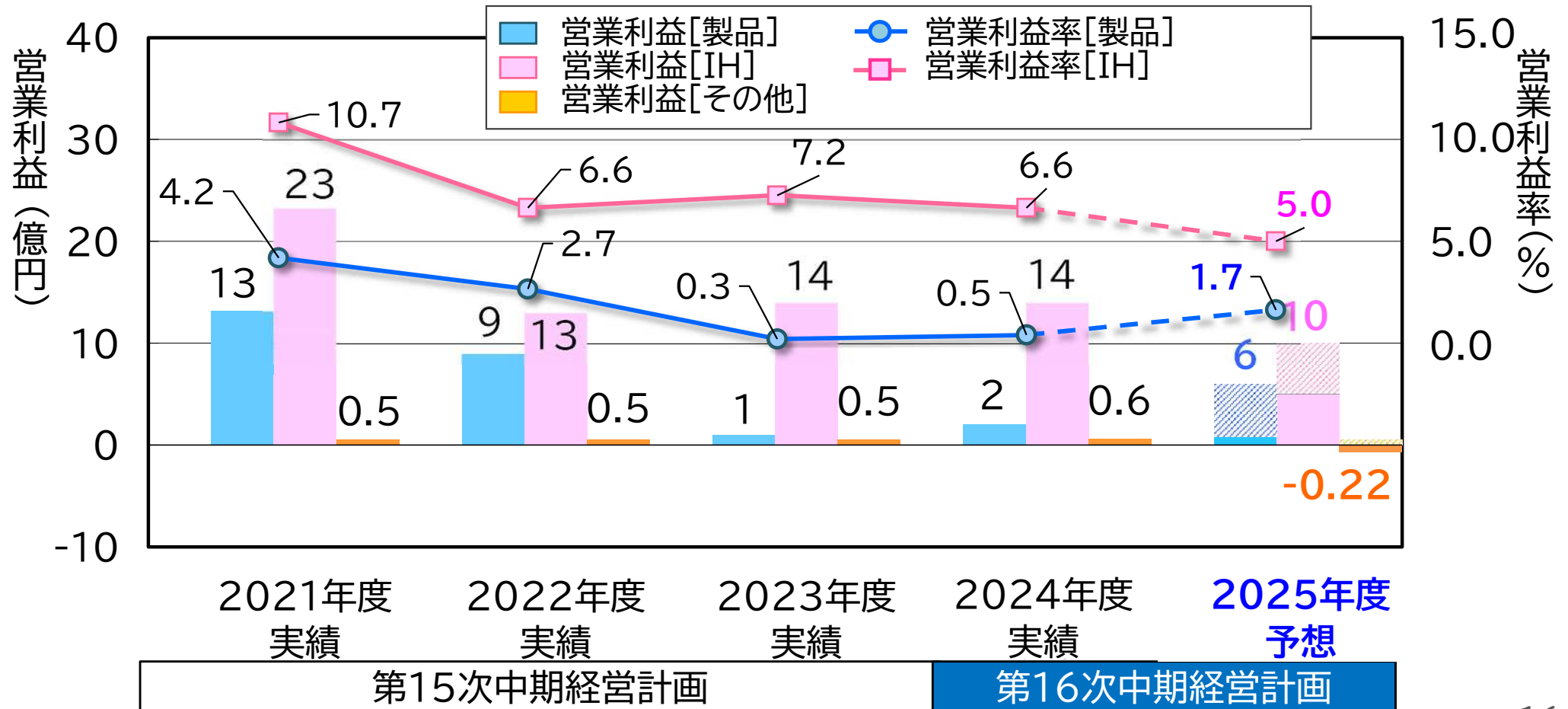
- 製品事業部 関連事業 ITWを含む国内自動車部品は前期より減少。海外ITW®、建設機械向け旋回輪は堅調に推移。土木・建築業界向けは上期の工事遅延などで減少するも下期は回復見込み。前期比6億円の減収、当初計画からの変更なし
- IH事業部 関連事業 熱処理受託加工関連は低調に推移するも一部海外向け受託加工が増加装置関連は上期の期ずれが下期で解消見込み。前期比8億円の減収、当初計画からの変更なし
- その他 ドーケンの売上を含む

(単位:億円)



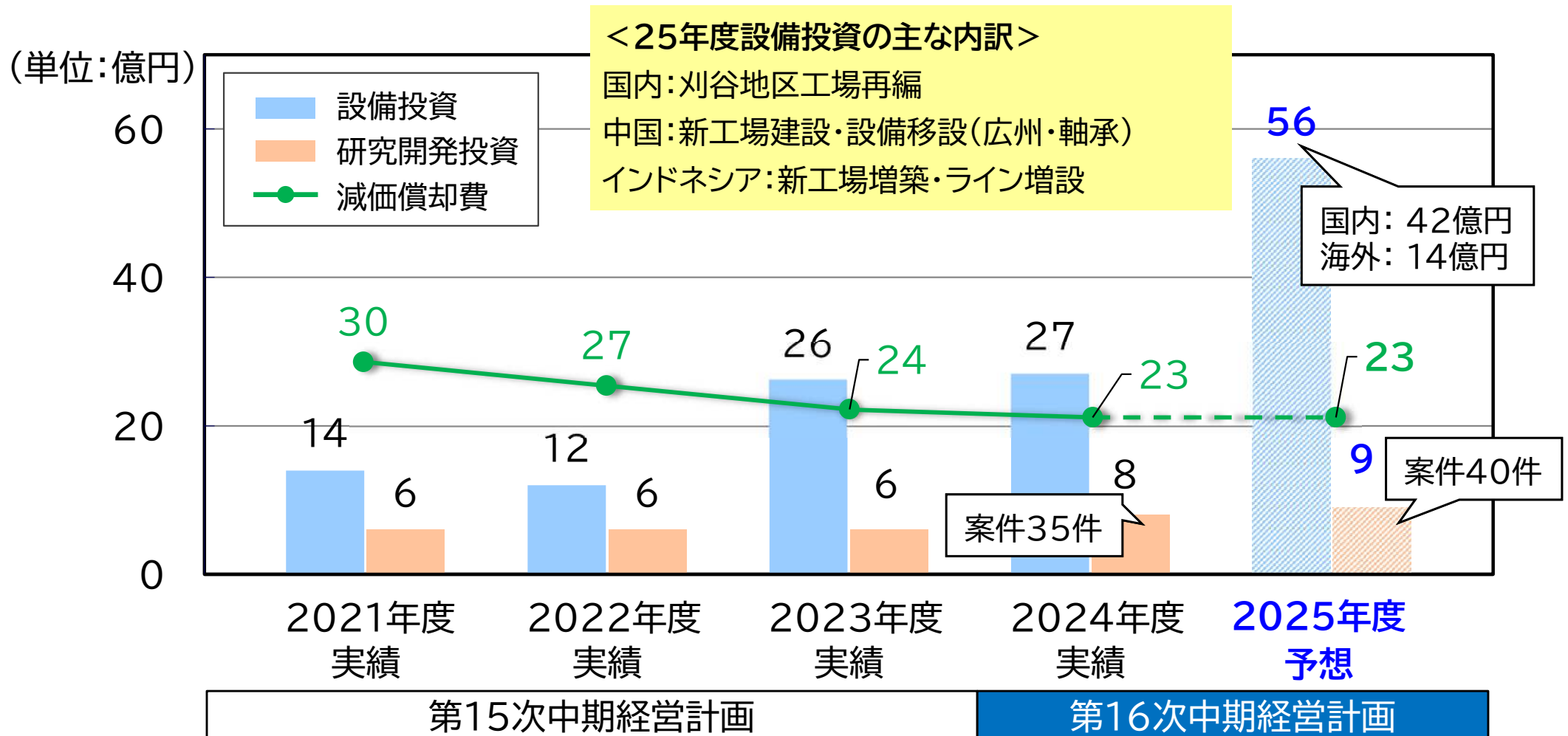
12. セグメント情報(営業利益・営業利益率推移)

- 製品事業部 関連事業 原材料を含む徹底的な原価低減活動により、前期比4億円増益、当初計画比3億円減益の見込み
- IH事業部 関連事業 海外向け受託加工の販売量が増加傾向にあること、大型投資案件工期が延びていることもあり、前期比4億円減益、当初計画比3億円増益の見込み
- その他 ドーケンを連結開始。のれん償却及び株式取得関連費用(※)を計上
MDIの株式取得関連費用(※)を計上 (※は今期のみ発生)



13. 設備投資/研究開発費/減価償却費の推移

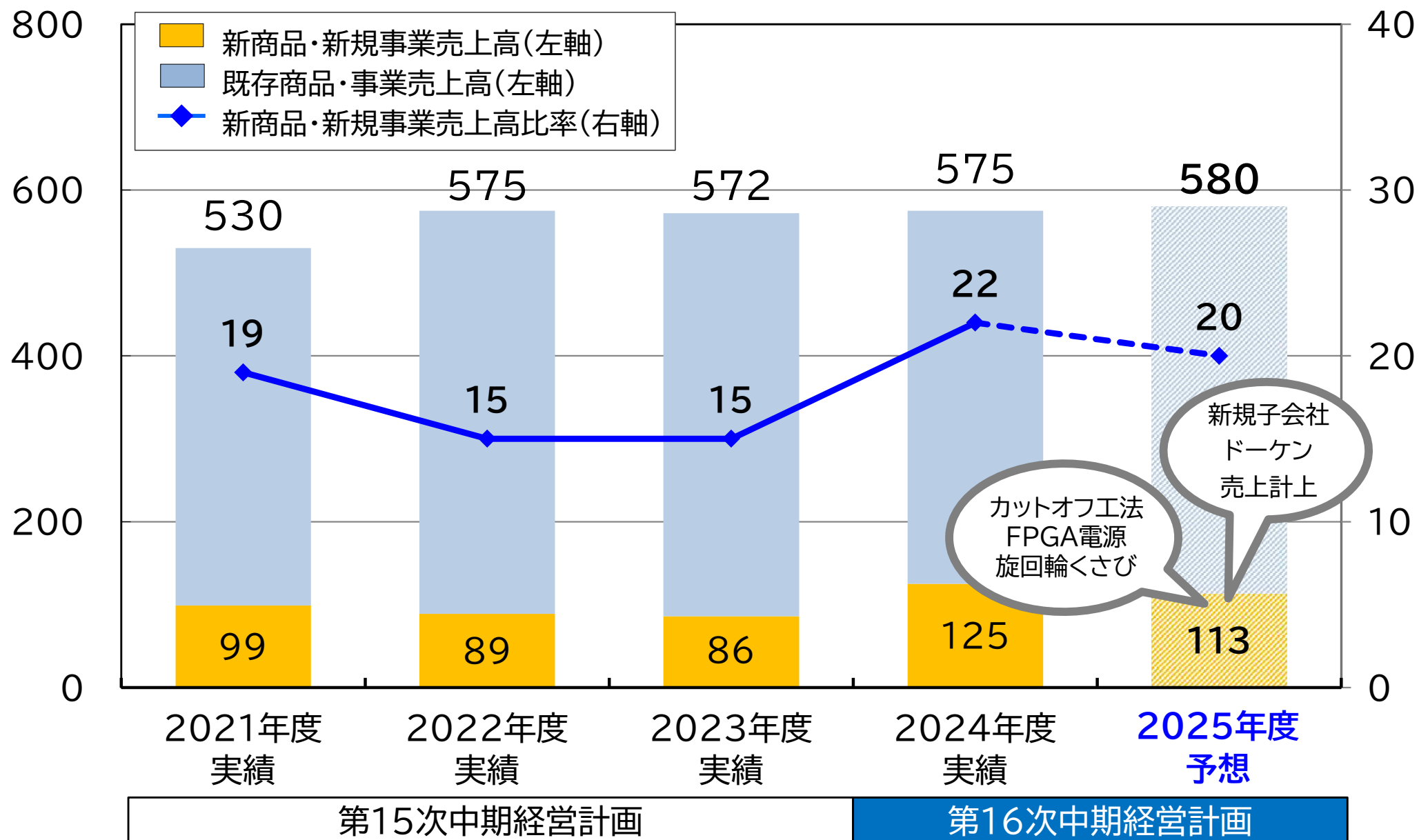
- 設備投資：中国の新工場建設と設備移設、REBORN刈谷プロジェクトなどの大型投資案件を実行中だが、他の計画案件の一部は次年度へ繰り越し
当初計画より9億円減少の56億円を見込む
- 研究開発費：成長ドライバー創生に向けてさらに開発案件を増やし、積極投資を推進するための増加を見込む



14. 新商品・新規事業の売上高推移

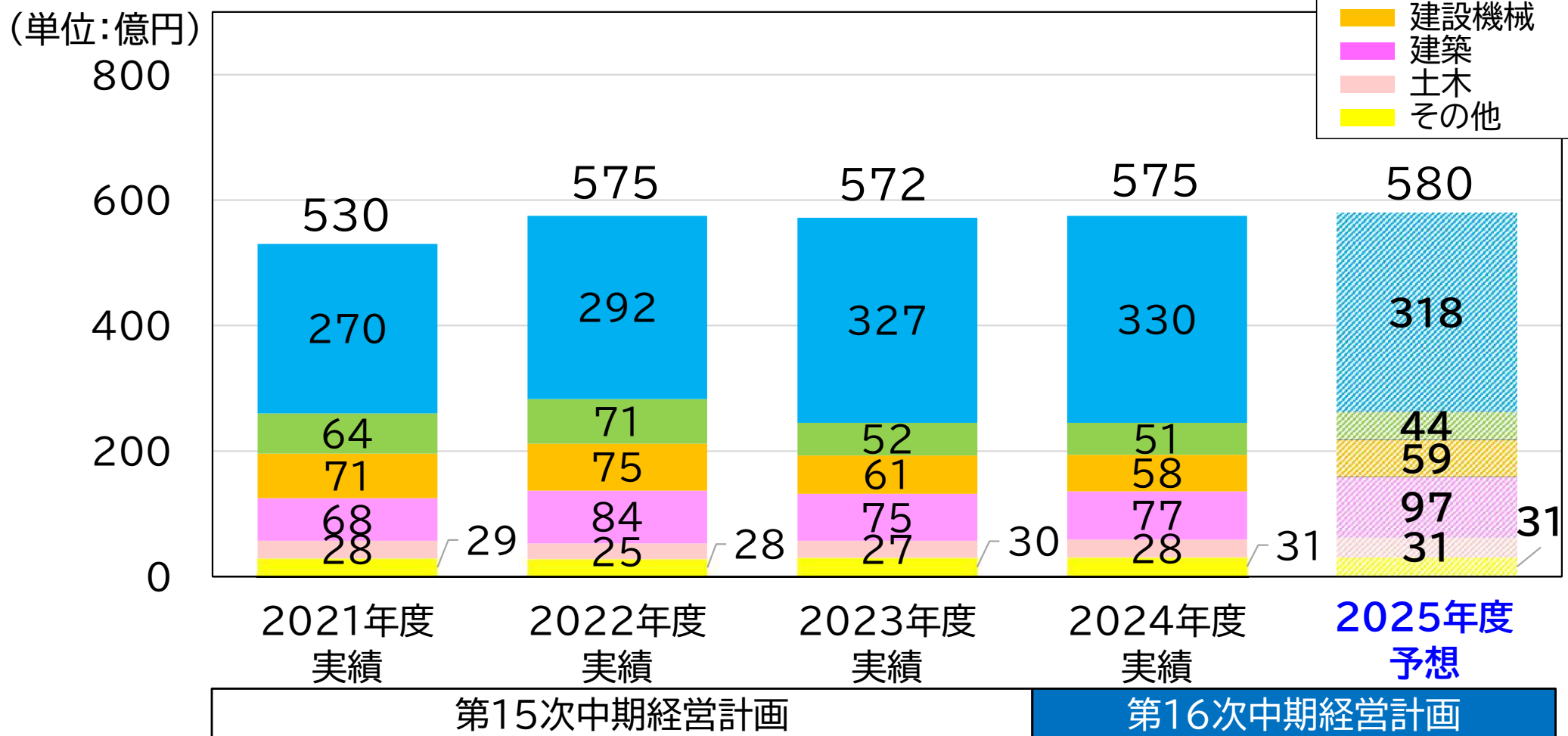
(単位:億円)

(単位:%)



15. 業界別売上高の推移

- 自動車：海外ITW®の販売は堅調に推移するも、受託加工、装置の売上は低調に推移
- 工作機械：受託加工は主要顧客の在庫調整による影響で受注が減少
- 建設機械：海外向け旋回輪事業の販売は堅調に推移。受託加工の売上は低調に推移
- 建築：工事遅延などの影響はあるものの、ドーケンの業績が加わる
- 土木：市況の低迷は継続、鉄道関連物件を中心とした拡販活動を強化



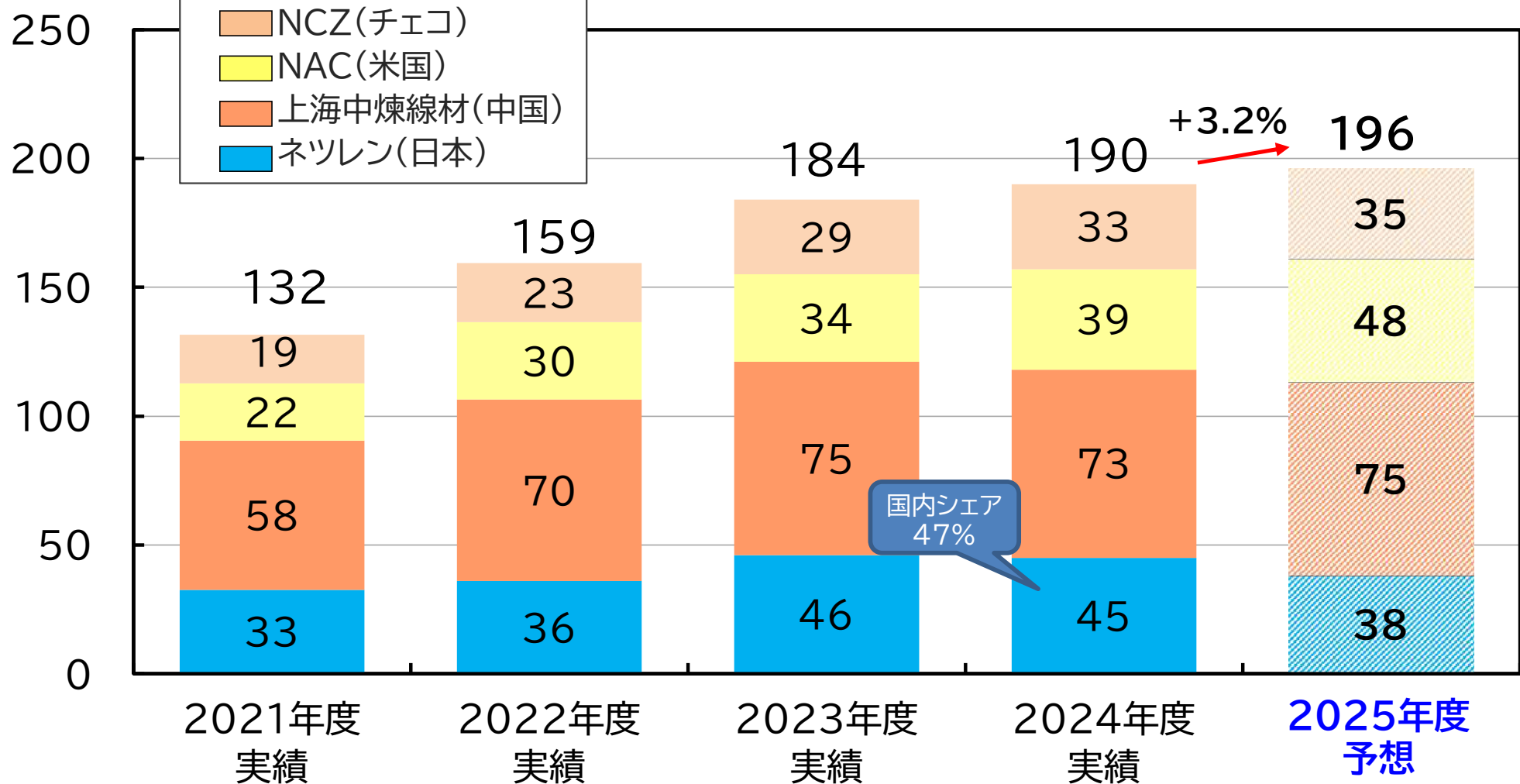
16. 高強度ばね鋼線(ITW®) 売上高の推移

- 国内の自動車業界の販売低迷により減少
- 米国の関税前の駆け込み需要の影響で米国顧客からの受注が増加
- 中国の日系顧客からの受注が減少するも東南アジア向け輸出推進
- 欧州の新規顧客向けの受注が増加

製品事業部 関連



(単位:億円)



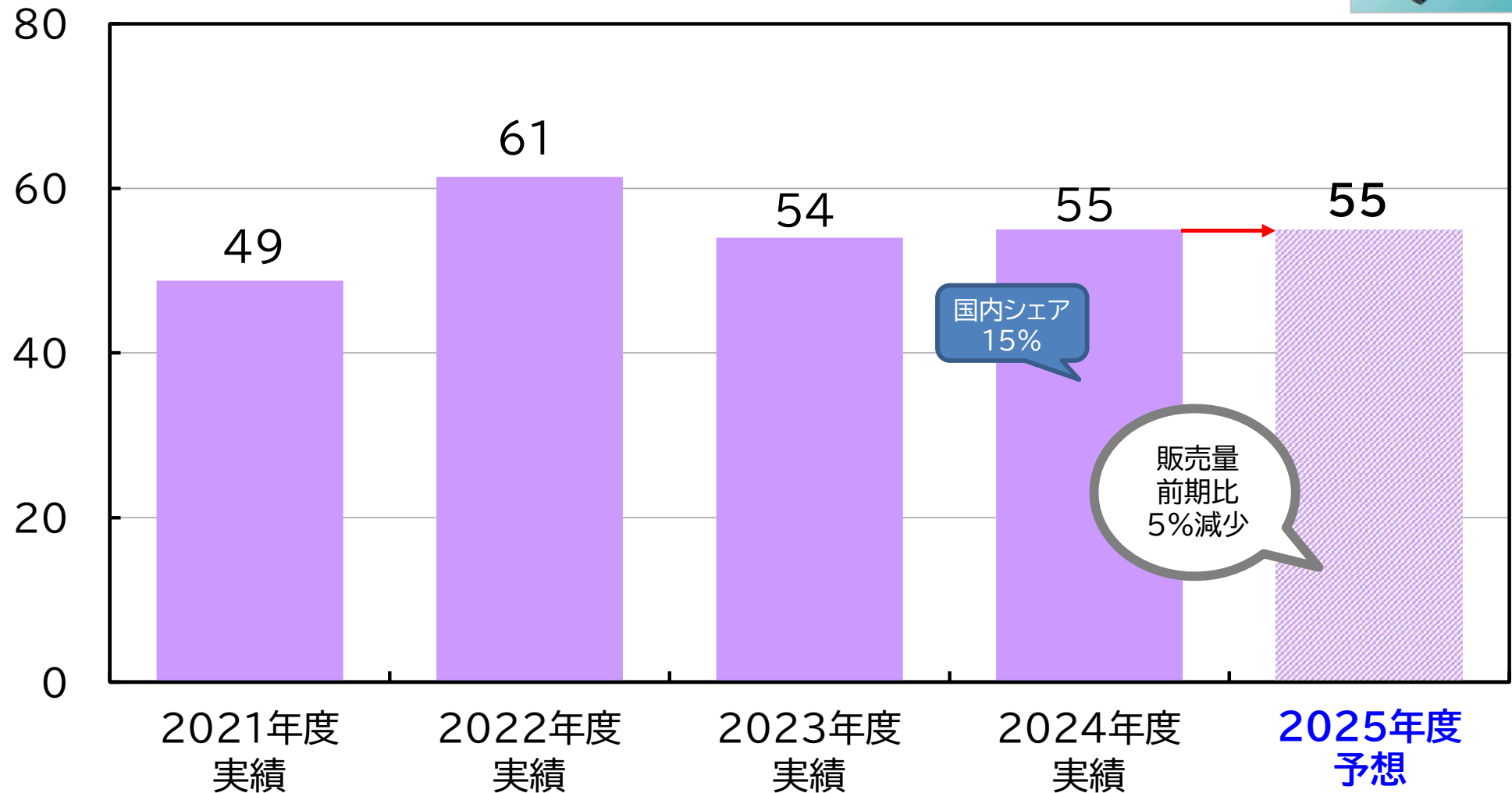
17. PC鋼棒・異形PC鋼棒 売上高の推移

- 北海道新幹線(スラブ軌道版)などの新規需要が見込まれる
- 工事遅延や着工遅れなどの影響で販売量は前期比約5%減少するものの、価格改定効果もあり、売上高は前期比横ばいを見込む

製品事業部 関連



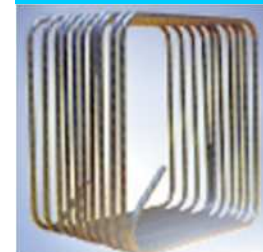
(単位:億円)



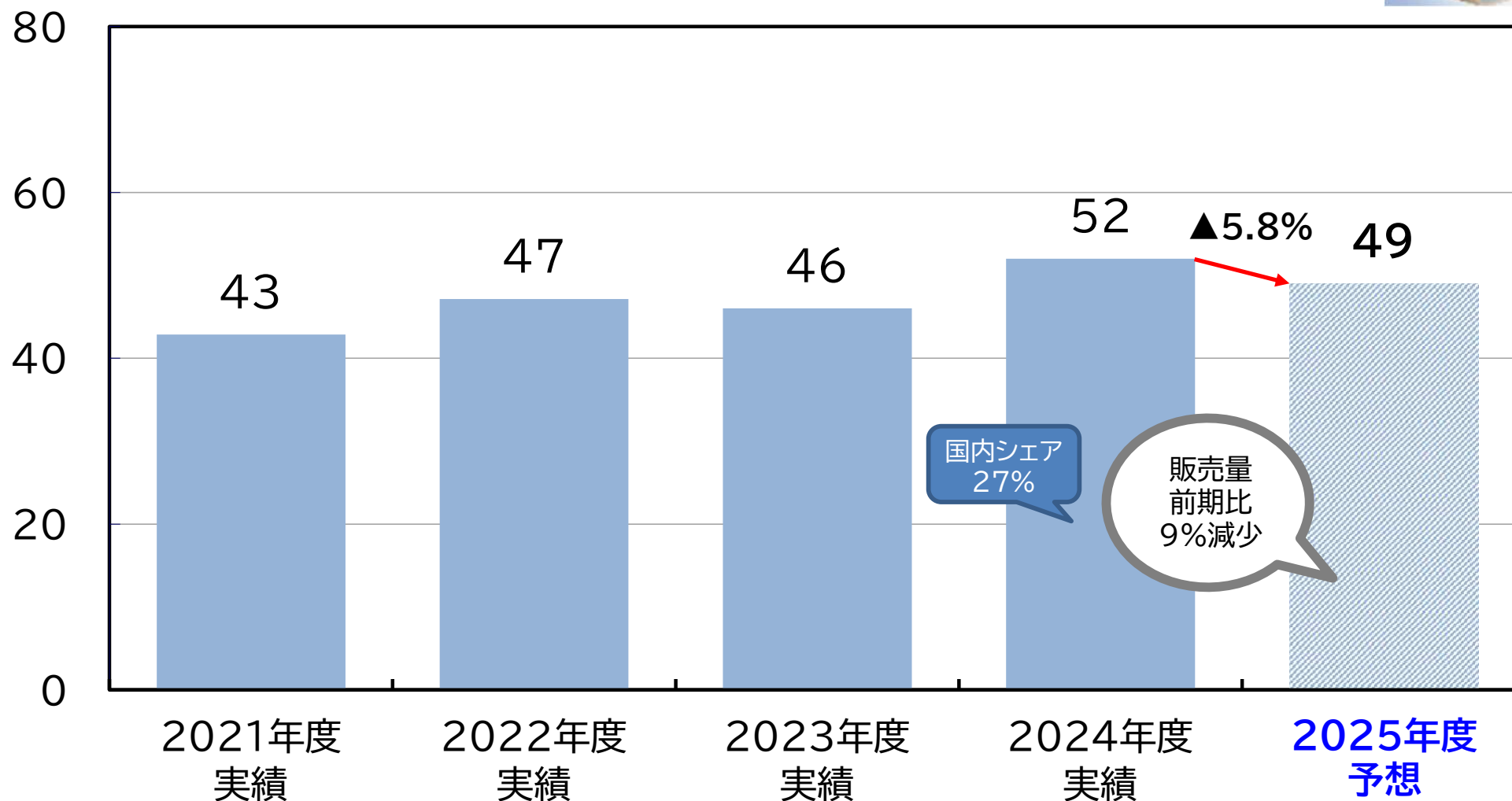
18. 高強度せん断補強筋 売上高の推移

- 受注残は増加したものの、物件の計画見直しや着工遅れなどの動きが顕著
- 北海道新幹線(高架橋柱)への新規採用があるものの、売上減少をカバーできず
- 前期比5.8%の減収を見込む

製品事業部 関連



(単位:億円)



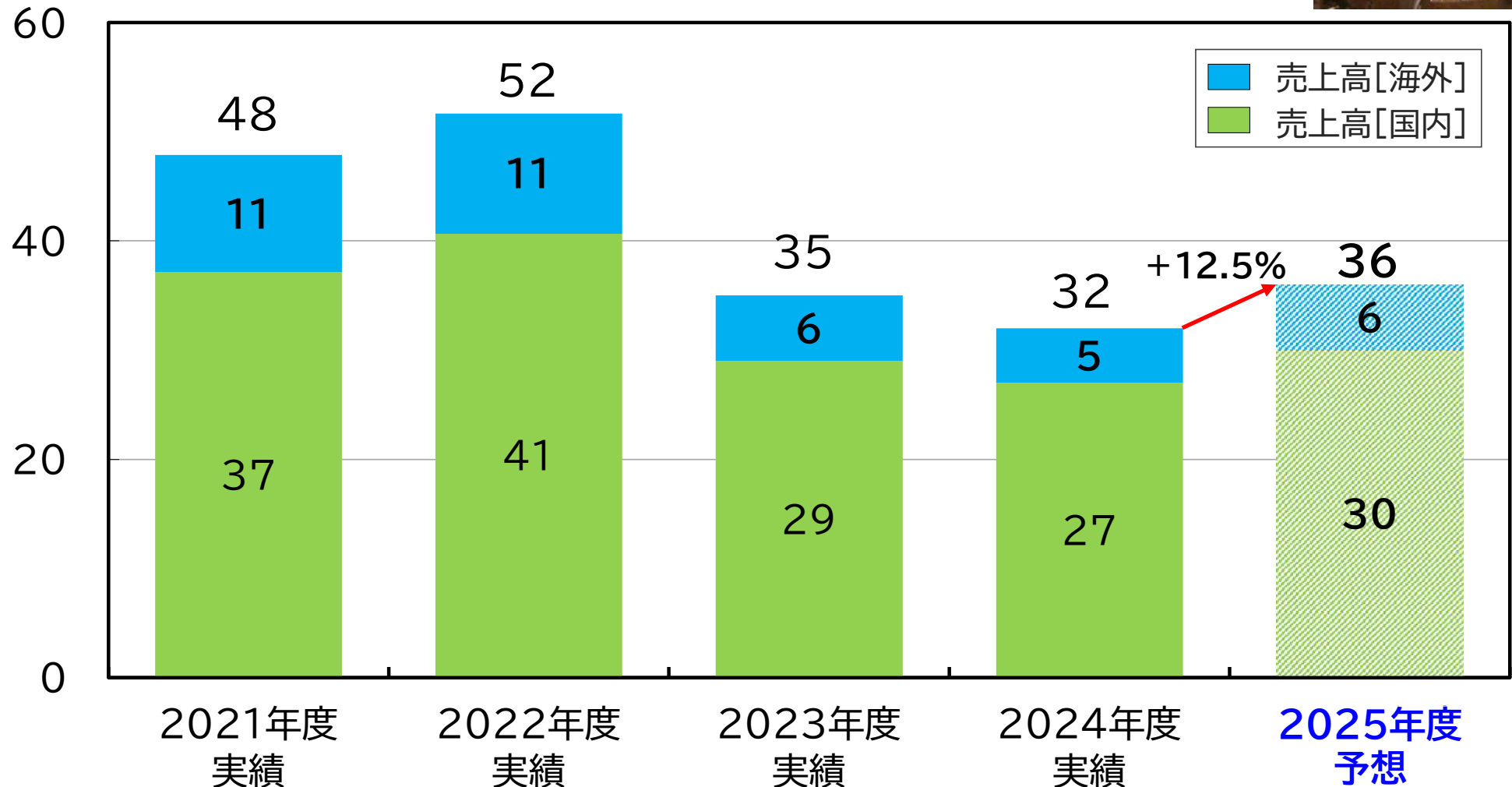
19. 旋回輪(建設機械部品) 売上高の推移

- 建設機械業界の回復とまではいかないが、主要顧客の海外向けの販売量が徐々に回復してくる見込み
- 前期比12.5%の増収を見込む

製品事業部 関連



(単位:億円)



※ グループ内取引を含む

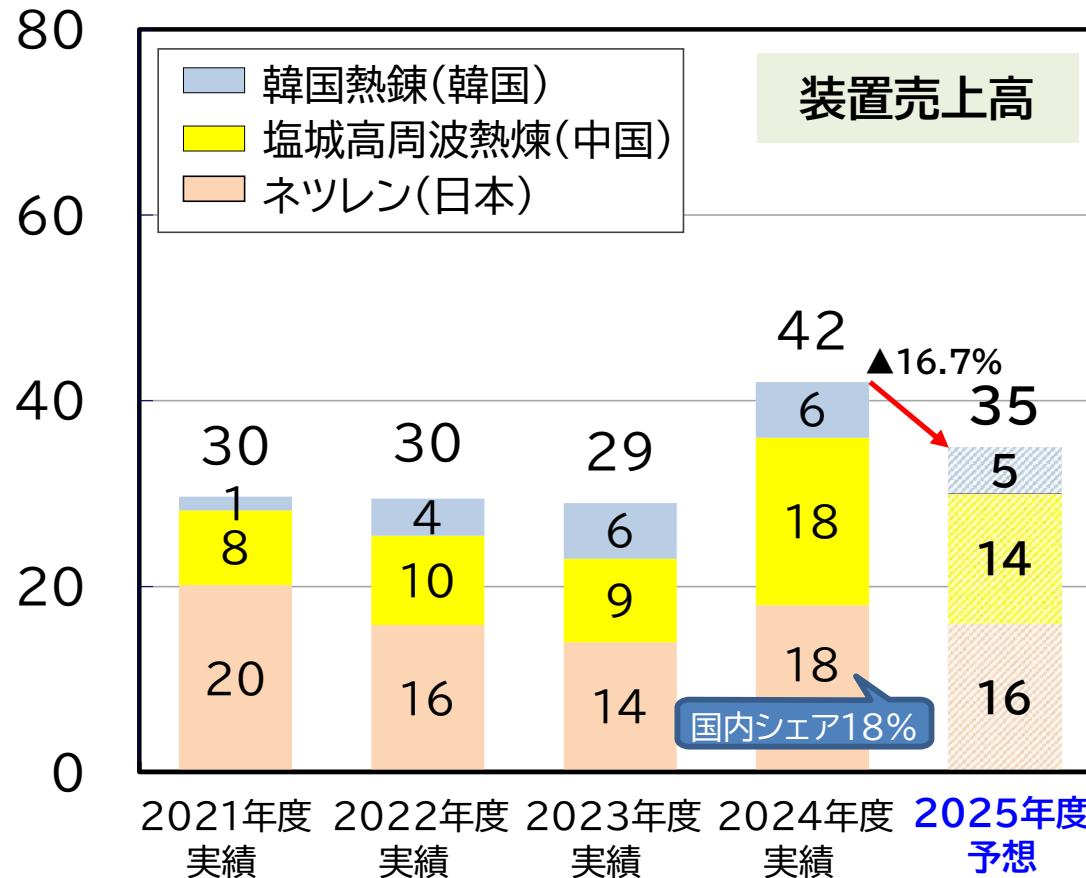
20. 誘導加熱装置・サービス 売上高の推移

- 装置売上高 : 海外は景気低迷による投資の先送り。国内は米国関税の影響から投資の先送りが見られ、前期比16.7%の減収を見込む
- サービス売上高 : 前期比、横ばいを見込む

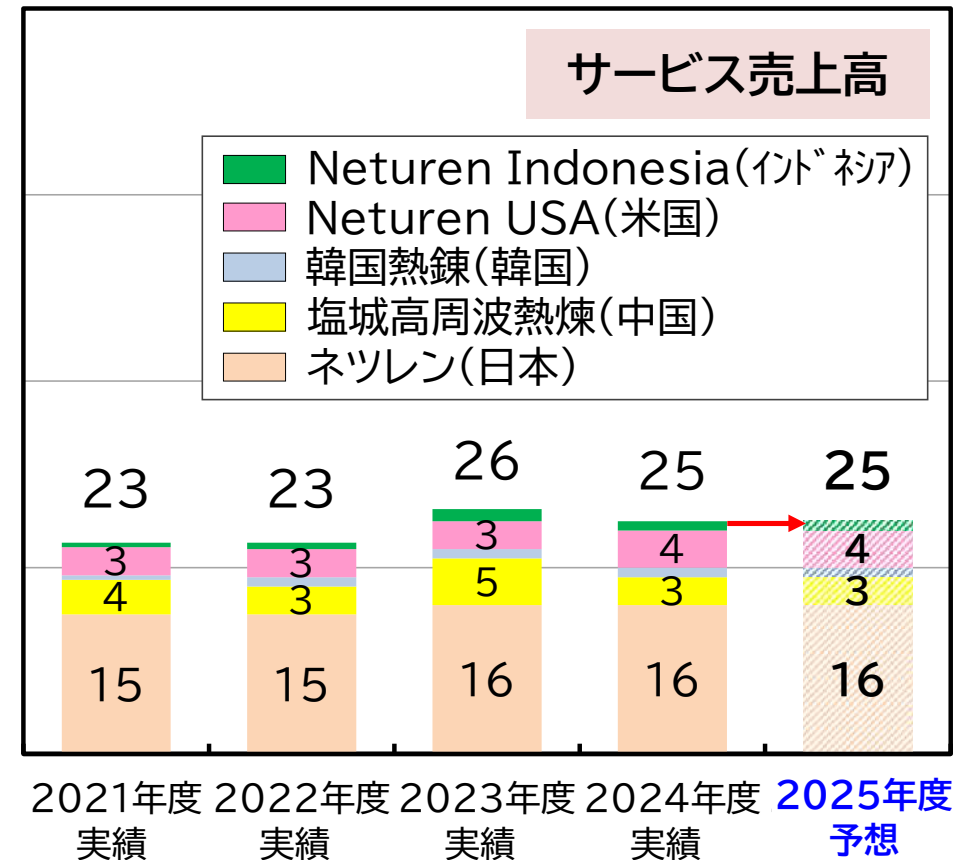
IH事業部関連



(単位:億円)



※ グループ内取引を含む



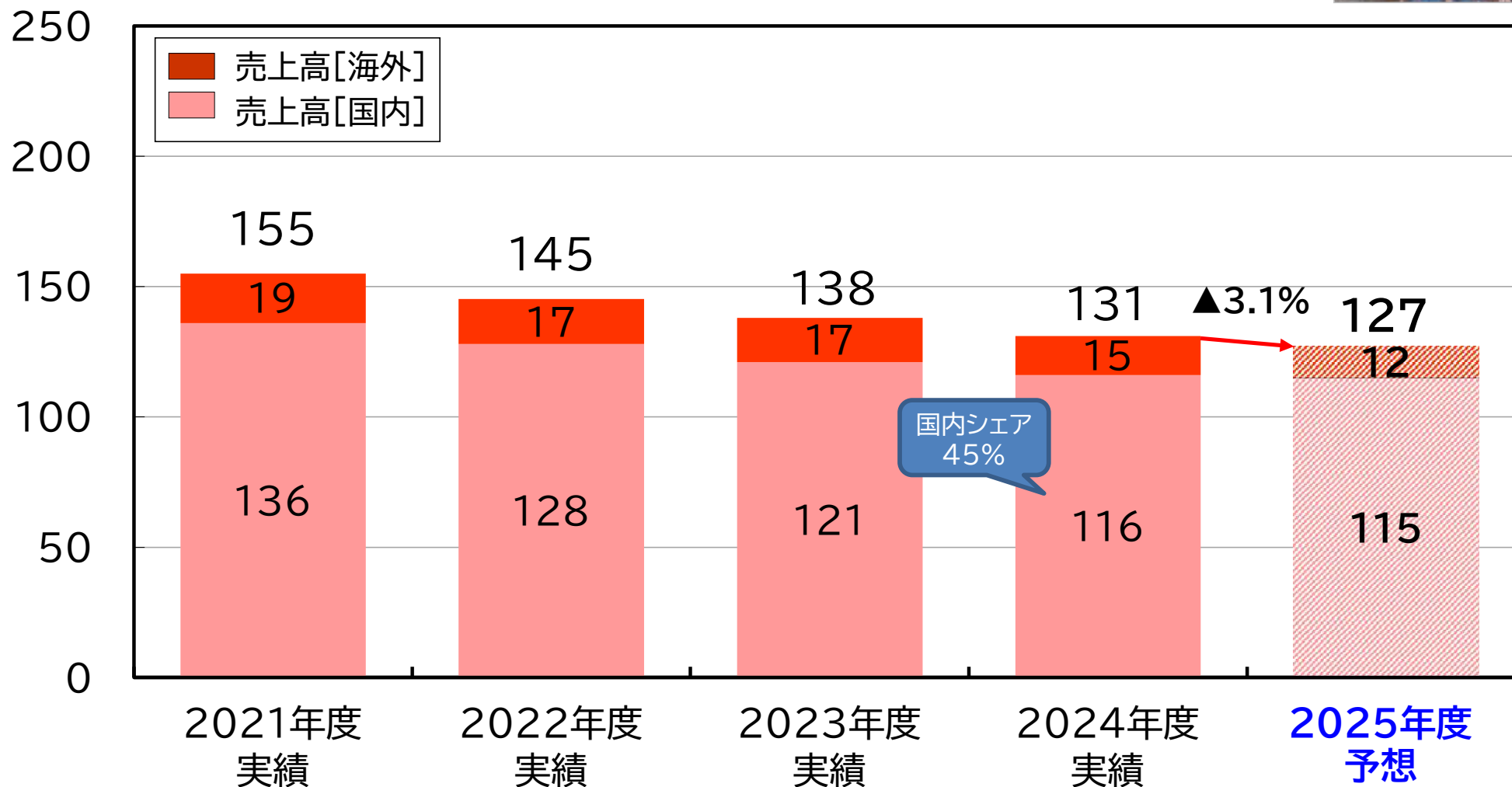
21. 熱処理受託加工 売上高の推移

- 自動車業界は海外向け受託加工の受注増加があるものの、国内の受注は低調に推移
- 建設機械業界はマイニング向けの受注が低調に推移
- 工作機械業界は、主要顧客からの受注が低調に推移
- 前期比3.1%の減収を見込む

IH事業部関連



(単位:億円)



01 2025年度 第2四半期(中間期) 決算の概要

02 経営実績の推移

03 第16次中期経営計画の進捗

04 Appendix



22. 第16次中期経営計画の進捗①

- ・スローガン：**Aggressive Challenge One NETUREN 2026**
- ・趣旨：成長・進化・躍進へ グループの総智を**繋げ** 積極果敢に挑戦しよう

企業価値向上

4つの戦略	●技術開発 成長ドライバーの創生	資本コスト経営	●事業ポートフォリオ ●ROICの本格導入・展開 ●キャピタルアロケーション ●資本政策・財務戦略
	・逆T字モデルを活用し、グループ間の力を 繋げて 、新たな事業・新たな製品・新たな技術を創生		
	●事業 成長エンジンの育成		
	・現場力に新しい技術を 繋げて 、お客様に満足いただける製品・サービス・技術を提供		
	●グローバル グローバルマーケットの拡大		
	・情報ネットワークを 繋げて 、未開拓地域も含めグローバル市場を拡大		
	●人財 自発的貢献意欲のある人財の育成		
	・人財育成を進め、各々の活躍をネットレングループ全体に 繋げて 、企業成長を加速		

2026年度 中計目標	売上高	営業利益	営業利益率	ROE	ROA	ROIC
	700億円	46億円	6.5%	6.5%以上	5.5%以上	5.5%以上

23. 第16次中期経営計画の進捗②

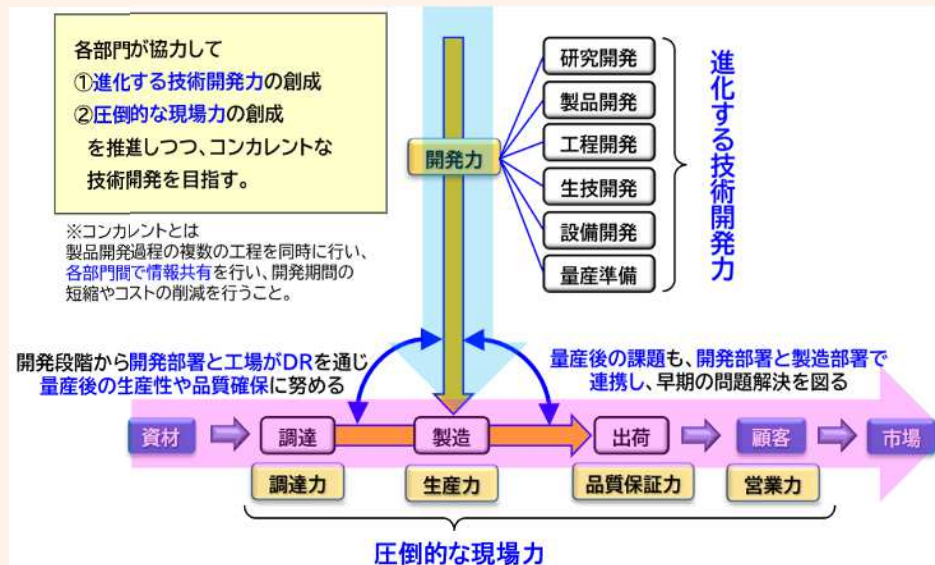
■役員合宿を実施し、経営施策の方向性を討議

開発

- 取引先との共同開発案件の活性化
- コア技術と新技術を融合したビジネスモデル
- 開発案件のGo or Stop判断早期化

事業

- 既存事業と(M&A含む)新たな事業とのシナジー効果を含めた営業利益の積み上げ



「逆T字モデル」



役員合宿の様子

24. 第16次中期経営計画の進捗③ | 4つの戦略(1/2)

技術開発 | 成長ドライバーの創生

新規事業の立上げ	・M&Aによる成長ドライバー第2号(MDI(株))を実現
新商品・新技術の市場投入	・大学・研究機関との共同研究推進 ・ネツレンMB工法による量産技術の開発 ・CAE解析×金属3Dプリンター技術を用いた加熱コイルの高性能化 ・バッテリーを内蔵した高周波電源の開発 ・最新AI技術を活用した生産/品質管理システムを組み込んだ製造ラインの立ち上げ

事業 | 成長エンジンの育成

製品事業部 関連	・ダブルスタークが一般評定物件の基礎梁用主筋に初採用 ・ROICを意識した生産体制の構築(赤穂、いわき、平塚) ・北海道新幹線向けPC鋼棒等納入
IH事業部 関連	・工場再編プロジェクトREBORN刈谷 ・機械加工を取り込んだ複数工程受託加工(株)ネツレン・ヒラカタ ・生産性向上に向けた中部地区の再編検討開始

25. 4つの戦略『成長ドライバーの創生』[事例1/2]

■ M&Aによる成長ドライバー第2号(MDI(株))を実現

協業目的

- ・排熱回収技術を持つMDIをネツレングループの一員に
- ・当社加熱技術とMDIの排熱回収技術を融合し、省エネに貢献する製品やサービスの開発・提供を行い、持続可能な社会作りに貢献



除湿冷房熱交換システム



洗浄液



川崎本社

「省エネ大賞」
(2023年度資源エネルギー庁長官賞)
など多くの受賞歴



●MDI株式会社の概要

- ・名称 : MDI株式会社
- ・所在地 : 神奈川県川崎市川崎区浅田3-12-10
- ・事業内容 : 企業の工場などの暑熱対策、環境改善、CO2 削減・省エネを目的とする排熱回収コンサルティング(各種熱交換器・ヒートポンプ/チラーの設計も含む省エネシステムの設計・製造・販売およびメンテナンスサービス)
- ・資本金 : 10百万円
- ・設立年月日 : 2005年12月20日

26. 4つの戦略『成長ドライバーの創生』[事例2/2]

■大学・研究機関との共同研究推進

実施状況

- ・最先端の知見を活用し技術力を高め続けるため、積極的に推進
- ・現在11の大学・高専と、計13の学術研究・新技術開発アイテムに取組み

<学会発表、論文投稿実績(例)>

基礎研究

実用開発

豊橋技術科学大学

高周波焼入れによる
しごき加工用金型の焼付き特性の向上

<高周波焼入れ処理により組織微細化した
機械構造用鋼における転動疲労特性>

上智大学

高周波焼入れによる
医療用チタン合金の高強度化

<電子ビーム積層造形したTi-6Al-4V 合金の
疲労特性に及ぼす複合表面改質処理の効果>

九州大学

鉄鋼材料の
強化機構の基礎研究

<炭素を含むマルテンサイト鋼における強化機構>
・焼入マルテンサイトにおける強化機構
・焼戻マルテンサイトにおける強化機構

東京大学、大分大学

線材の表面疵の
探傷技術開発

<漏洩磁束のフーリエ係数に基づく鋼棒の
亀裂位置 特定のためのスパース性を利用
したノイズ耐性手法>

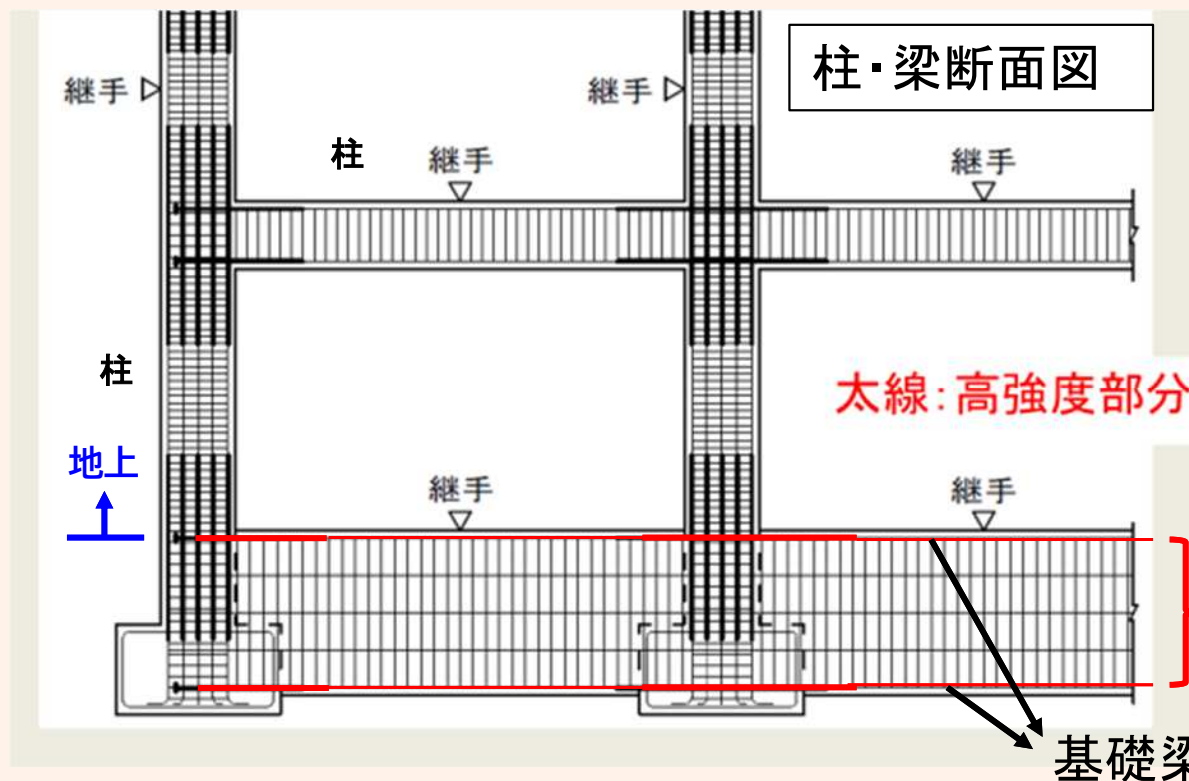
27. 4つの戦略『成長エンジンの育成』 [事例1/3]

■ダブルスタークが一般評定物件の基礎梁用主筋に初採用

採用理由・効果

- ・採用理由: 基礎梁の主筋量に加え、特に梁幅の寸法低減効果が大きく、施工費や建設コストの大幅な削減を実現
- ・採用効果: 大型倉庫を中心に、試設計の検討依頼多数あり

✓ 採用実績: 免震構造マンションに個別認定(18~33階)で8件採用



個別認定と一般評定 (概念)

	個別認定	一般評定
対象	限定された建物	材料や作り方 そのもの
使用範囲	限定された建物	建築物
使用事例	超高層や特殊な デザイン・仕様	一般的な RC造

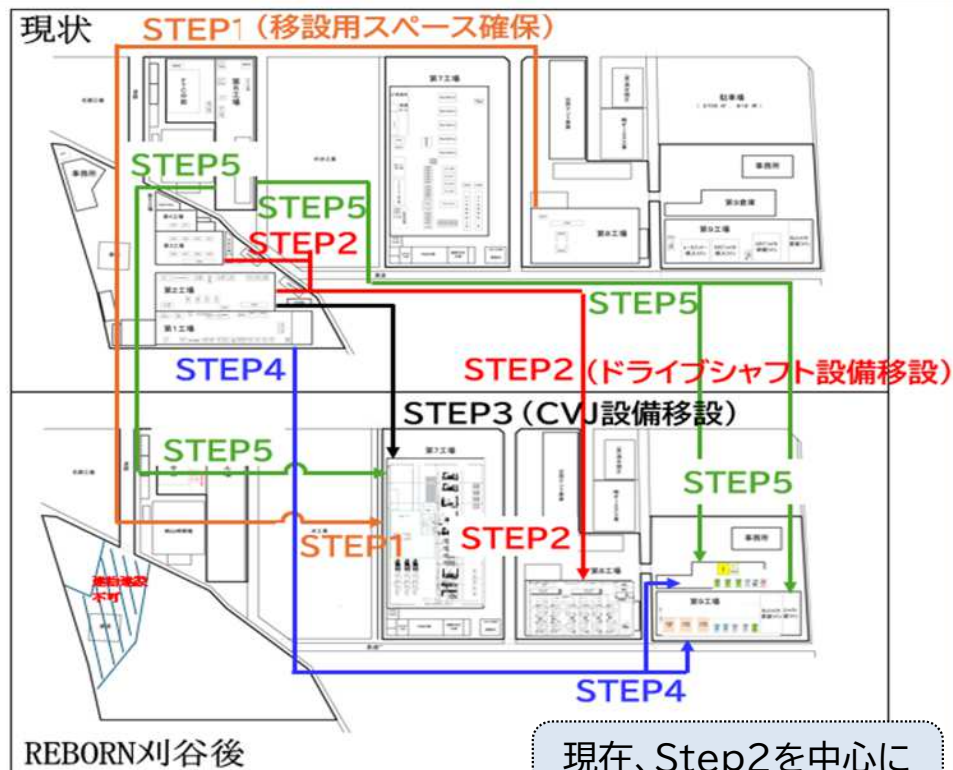
市場領域の
拡大

28. 4つの戦略『成長エンジンの育成』 [事例2/3]

■ 工場再編プロジェクトREBORN刈谷

プロジェクト進捗

- ・2025年度はドライブシャフト製造工程の専用化工場を実施し、韓国熱錬製4軸焼入装置2台を導入
- ・同時に、CVJ(※)外輪製造工程集約を進め、CVJ外輪用焼入焼戻装置(塩城高周波熱錬製)も導入



※CVJ:等速ジョイントの略称。自動車のドライブシャフトに使用される部品



CVJ外輪専用焼入焼戻装置



ドライブシャフト専用工場 韓国熱錬製4軸焼入装置

29. 4つの戦略『成長エンジンの育成』 [事例3/3]

■グループ会社による機械加工を取り込んだ新たな受託事業拡大

(株)ネツレン・ヒラカタ

導入目的

- ・熱処理加工の前後工程を取り組んでいくため、新たにマシニングセンターを導入し、稼働開始
- ・ネツレングループ全体への展開を計画



(株)ネツレン・ヒラカタの外観



最新の機械加工装置

30. 第16次中期経営計画の進捗③ | 4つの戦略(2/2)

グローバル | グローバルマーケットの拡大

製品事業部 関連	・ITW®の他用途展開 ・中国軸承新工場 2026年7月操業開始 ・Wire & Tube 2026 国際ワイヤー産業展へ出展
IH事業部 関連	・広州豊東熱煉 第2工場完成 ・ネツレンインドネシア 第2工場操業開始 ・日中韓連携にて開発したハブ焼入焼戻設備試運転開始

人財 | 自発的貢献意欲のある人財の育成

●VISION・中期経営計画 の浸透	・一般職向け資本コスト経営/ROIC社内浸透策実施 ・社長診断でトップメッセージ発信(8回／～11月)
●自発的貢献意欲の醸成	・社内／社外人財交流の活性化 ・高度な知的財産人財の育成
●グローバル人財強化	・海外関係会社技術支援(7月、新ゲート基板／韓国) ・語学研修9名受講
●スキルマップのシステム化	・プロジェクト活動の人事評価制度導入
●多様な人財活躍	・育児目的休暇年間10日付与 ・人財育成センターのリニューアル検討開始

31. 4つの戦略『グローバルマーケットの拡大』[事例1/2]

■ITW®の他用途展開

事業拡大

- ・従来は、高強度・高機能製品を中心に販売
- ・今後は、線径(形)や強度バリエーションを拡充し、自動車以外の新たな市場へも販路を拡大
- ・グローバル拠点連携による周辺国への販路拡大

他市場への展開実績例

- ✓ 産業用異形線ばね
(ネツレンアメリカ、上海中煉線材)
- ✓ 農業機械部品・家具用ばね
(海外3事業所)
- ✓ 砕石機用太径ばね
(ネツレンアメリカ、上海中煉線材)
- ✓ ガレージシャッター用ばね
(ネツレンアメリカ)



(例) 農業用機械部品 使用例※



(例) ガレージシャッター用ばね 使用例

32. 4つの戦略『グローバルマーケットの拡大』[事例2/2]

■ 広州豊東熱煉 第2工場完成

事業拡大

- ・日系自動車メーカーが低迷する中、自動車部品以外の取り込みも目指し、攻めの投資として第2工場を建設（投資：6億円）
- ・最新鋭の「真空浸炭装置」を導入し、より多くの部品向けに高品質な熱処理受託加工が可能



第2工場の外観



【可能となった部品例】

- ・モーターシャフト
- ・小モジュール歯車
- ・減速機など

新規導入の真空浸炭装置

33. 4つの戦略『自発的貢献意欲のある人財の育成』[事例1/2]

■ネツレングループ全社技術報告会の開催

実施目的と概要

- ・研究開発の活性化、逆T字モデル活用による開発促進を目的に開催
- ・経営層とのディスカッションを通じた若手技術者の育成も狙い
- ・最新の研究開発テーマ12件について、実用化・事業化に向け活発な意見交換を実施

<前回比較>〔 ● 参加者：前回120名 → 今回190名
● 発表者(主担当者)の平均年齢：前回39歳 → 今回34歳 〕



全社技術報告会の様子

前回の平均年齢は
確認依頼中

34. 4つの戦略『自発的貢献意欲のある人財の育成』[事例2/2]

■従業員向け資本コスト経営／ROIC社内浸透策実施

実施概要

- ・従業員向けにマンガツールを活用した浸透策を実施中
- ・社内アンケートでも、自分ゴト化ができたと高評価

Phase1

ROICやその周辺概念の認知

・4頁×4話
・4～8月

- ・第1話「企業価値向上、資本コスト経営とは？」
- ・第2話「ROICとは？」
- ・第3話「ROIC向上のためには？」
～売上債権・仕入債務編～
- ・第4話「ROIC向上のためには？」
～棚卸資産・固定資産編～



Phase1の例

Phase2

実業務とROICとの関連理解

・24頁×1話
・9～12月



Phase2の例

実施済

Phase3

自分ゴト化の深耕

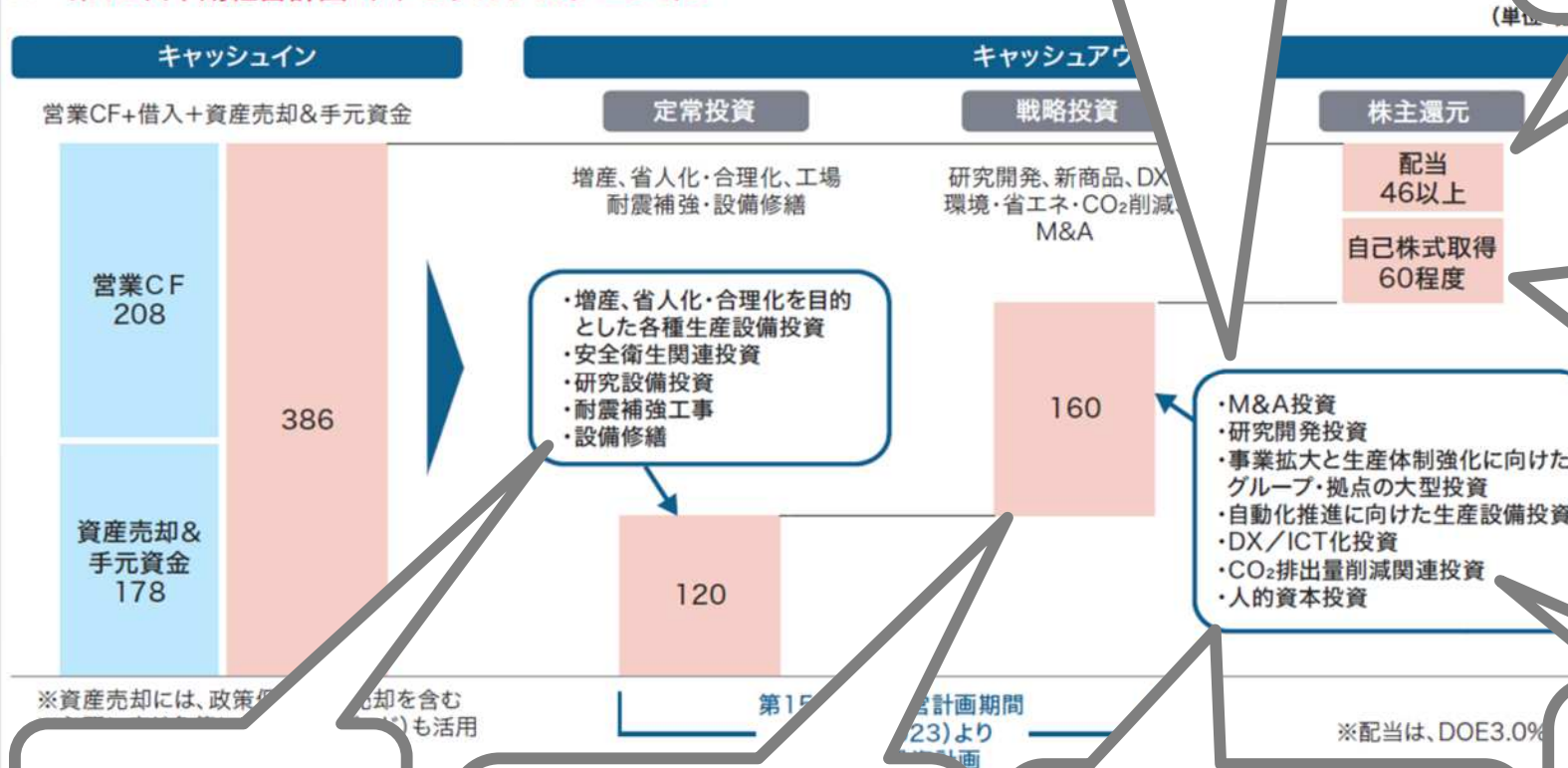
・4頁×3話
・1～3月

社内好事例をマンガ化

35. 第16次中期経営計画の進捗④ 【キャピタル・アロケーション】

・第16次中期経営計画
説明資料より

図2: 第16次中期経営計画 キャピタルアロケーション



<グローバル強化>
インドネシア (9億円)
中国軸承 (8億円)
広州第2工場 (6億円)

<配当>
中間:11億円実施
(33円/株)
期末:11億円予定

<自己株式取得>
9億円実施
(5~9月、継続中)

計画通り
遂行中

<M&A投資>
31億円
実施
(ドーケン、MDI)

<REBORN刈谷>
15億円
計画(3年間)

<CO2削減>
太陽光発電投資
3億円の計画

36. 第16次中期経営計画・ポスター

NETUREN VISION 2030
「進化と躍進」
2021.4～2031.3

あるべき姿
企業価値を高め続けるとともに
持続可能な社会づくりに貢献する

目指す姿
CO2排出削減に有効なIH熱処理技術を核とする技術・
製品を通じ、企業価値を高めて環境負荷を低減する
N-DXの展開を進め、グループ全員の力を結集して
進化を続け、グローバルに躍進する

第16次中期経営計画 スローガン 2024.4～2027.3[3年間]
**Aggressive Challenge
One NETUREN 2026**

企業価値向上

技術開発
成長ドライバーの創生

事業
成長エンジンの育成

グローバル
グローバルマーケットの
拡大

人財
自発的貢献意欲の
ある人財の育成

資本コスト経営

NETUREN

第16次
中期経営計画





WEBサイト



統合報告書
2025



(注)当資料に記載の将来に関する予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により開示した予想数値と異なる場合があります。

01 2025年度 第2四半期(中間期) 決算の概要

02 経営実績の推移

03 第16次中期経営計画の進捗

04 Appendix



会社概要

ネツレンは1946年、わが国で初めてIH(誘導加熱)技術の事業化・工業化に成功したパイオニア企業です。創業以来蓄積された**IH(誘導加熱)技術**を中核とし、**金属製品の製造と受託加工、装置販売**の事業展開をしています。

商号	高周波熱錬株式会社(ネツレン)
所在地	東京都品川区東五反田二丁目17番1号 オーバルコート大崎マークウエスト
設立	1946年(昭和21年)5月15日(現社名)
資本金	64億18百万円
売上高 (2025年9月末)	連結:263億74百万円 単体:143億91百万円
従業員数 (2024年9月末)	連結:1,679名 単独889名
金融商品取引所	東京証券取引所 プライム市場 証券コード:5976



代表取締役社長執行役員
大宮 克己

国内・海外ネットワーク

国内:10社26拠点

海外:6ヵ国15社16拠点

(米国、中国、チェコ、インドネシア、韓国、メキシコ) (2025年9月末現在)

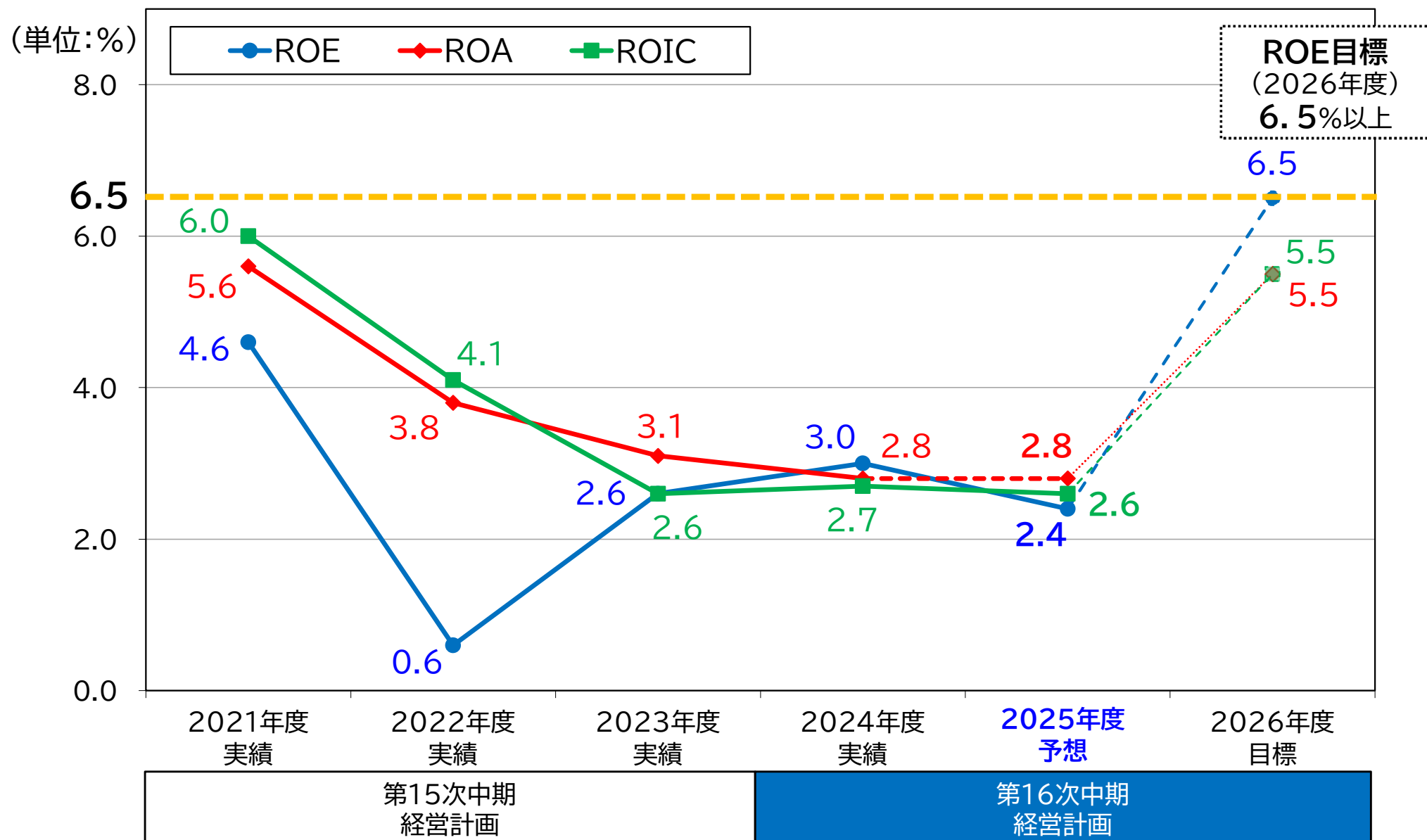
ネツレン国内事業所一覧

- ① いわき工場
- ② 茨城工場
- ③ 本社
- ④ 人財育成センター
- ⑤ 湘南事業所・平塚工場
- ⑥ 可児工場・可児NH工場
- ⑦ 名古屋工場
- ⑧ 刈谷工場
- ⑨ 製品事業部大阪営業所
- ⑩ 尼崎工場
- ⑪ 神戸工場
- ⑫ 赤穂工場
- ⑬ 岡山工場



ROE・ROAの推移

- 2024年度実績は、ROE3.0%、ROA2.8%（ROICは2.7%）



事業内容

【製品事業部関連事業】

高強度鋼材製品

自動車



建築



土木



中空ラックバー(自動車)



旋回輪(建設機械)



インナーチューブ
(2輪車)



一貫加工部品

【IH事業部関連事業】

自動車



熱処理受託加工

建設機械



産業・工作機械



IH
(誘導加熱)
技術

高周波焼入設備



高周波電源



誘導加熱装置

【その他】 賃貸事業他

業界別「売上高」比率

